



房総半島最南端・安房白浜へ移住して十か月。龍ヶ崎市民の皆様は、「あいつ逃亡した」と思っているかもしれません。四月二十一日に議員報酬をいただき、五月十五日にはこちらへ引越してきたのですから。白浜移住を告げると、例外なく「いいところへいらつしやる」と言われました。地名と国内有数の観光地・南紀白浜のイメージなどが、聞く人の脳裏を横切るのかもしれませんが。

もちろん、安房白浜はいいところです。今年九十一歳になる母が、地元の「ひもの屋」の女将から「白浜のどこがいい」と問われ、「静か」と返答。女将からは、「それだけ？」と二の矢が放たれました。その会話を聞きながら指折り。やさしいが時には激しさを見せつけ



目指せ！！「がま研・南房総支部長」

近藤 博

お母上の介護の為、龍ヶ崎市議を辞されての移住。がま口上は新天地で活躍の大きなアシストになって・・・

「楽しみ広場」、「高齢者のつどい」などで口上を三回演じることができました。私はこれまで、実演も練習会でも尻込みすることが多かったので

「楽しみ広場」、「高齢者のつどい」などで口上を三回演じることができました。私はこれまで、実演も練習会でも尻込みすることが多かったので

でも・でもです。普段あまり酷使することのない頭を使い、不便さを受け入れ、逆手に取る「白浜暮らし」を実現するぞ、とここに宣言します。今、要介護一から要介護三に出世(?)した認知症の母の世話など、これまでの人生のなかで、最も時間に追われる日々を過ごしている気がします。が、もしかしたらこれ、「充実の極致」、カモシレマセン。

でも、白浜は不便なところですよ。お客が電車に乗って買い物に来るような大型店舗が複数あるところから、龍ヶ崎へ引越した際は、「常磐線って時刻表必須の世界！」と愕然としました。ところが住んでみると龍ヶ崎には、交通、医療、利便施設など生活に必要なものはほぼそろっており、物価も比較的安い。不便とはほど遠いとても暮らしやすいまちです。

る海、トンビが飛び交う碧い空、漁師ことばで口調は荒いがこまやかな人情、なんといつても「怖いほどに美しい夕焼け」・・・教えあげればきりがありません。

恒例 新緑の筑波路めぐり

日時：5月15日(日) 9:30集合
小雨決行・荒天中止
集合：新治商工会 (土浦市高岡 1902-7)
案内人：井坂 敦實 氏 (郷土史家)
コース：小田氏ゆかりの高岡・藤沢旧跡
法雲寺・藤沢城址ほか
持ち物：弁当、飲み物、タオル、帽子
申込み：5月8日(日)までに練習会支部代表者
または 林会長 (TEL029-862-3629)まで

ご家族・ご友人と気軽にご参加ください。



まで、独学になります、口上の腕を磨いておきます。



すが、新天地、一年足らずでなんと三回です。将来、「筑波山がまの油売り口上研究会」の南房総支部ができるとすれば、ワタクシが支部長候補No.1であることに間違いありません。(苦笑)

大切な読み聞かせのプログラム

『がまの油売り口上』

石月 ひろ子

昨年の秋十月十日、私の故郷常陸太田市と大分県臼杵市が姉妹都市の締結をした。その由縁は今から二百年程前の江戸時代に遡る。

行き倒れになった父親を、二十二歳と十九歳の姉妹が徒歩で、臼杵から常陸太田市東連地町の青蓮寺まで迎えに来て、無事帰郷したという親孝行の美談だ。沢山の古文書等が発見され解読の結果実話とわかり「二孝女顕彰会」が発足、交流が生まれて姉妹都市締結の運びとなった。

三年前、臼杵市へ訪問した折、アトラクションとして「がまの油売り口上」を披露した。

そのことがあったからか今回の式典では、「がまのお姉さん！逢いに来たよ」と握手され、がま先生のお蔭で皆様がお覚えてい



青蓮寺本堂でのおはなし会

ならず残念がついていた。県内の道の駅などに置いて販売するのでもいいが、なかなか手に入りにくいことも捨て難い魅力でしょうか・・・。

銀河ステーション文庫を主宰して読み聞かせ活動歴は二十五年程になる。絵本の勉強に・・・と軽い気持ちで覗いた水戸教室だったが、先生や先輩の実に巧みな導きで、いつの間にか箱を置いて実演していた。絵本の読み聞かせや朗読、語りとは違う醍醐味があり、何度演じても紙切りと血止めのところではヒヤリとする。しかし、笑顔と拍手に勇気づけられ次回はもう少し上手いくようにと考える。これで良いということはない。真剣勝負そのものである。



お月見おはなし会

て下さり、大変嬉しく楽しい交流会になった。

観光バスの中でガイドさんが筑波山を見ながら、妙薬・がまの油の説明をしたそうだが、土産売り場ですら探しても妙薬が見つからず残念がついていた。県内の道の駅などに置いて販売するのでもいいが、なかなか手に入りにくいことも捨て難い魅力でしょうか・・・。

今では、二孝女物語や太田の民話、宮沢賢治作品の語りと共に大切なプログラムの一つとなり、私の宝物になっている。活動の場も広がり忙しい毎日だが健康に気を付けて、笑顔と元気を届けられるよう一層精進し「筑波山がまの油売り口上」のころを大切に伝えていきたい。

会費納入はお済みですか？

未納の方は下記まで年会費の振込をお願いいたします。

- * 年会費：2,000円
- * 振込先：ゆうちょ銀行
- * 口座番号
10690-38833081
- * 口座名
筑波山がまの油売り口上研究会



西山荘レストラン桃源・花ショウアップ祭

がま口上との出会い

安島 達雄

平成十九年の秋、丁度六十才になった頃です。何か夢中になれるもの、好い趣味を持ちたいものだと思うようになりました。

若い頃から、渥美清の寅さん映画が好きでよく観て、切れの良いテンポで客を笑わせるのが好きでした。そんな時、新聞の『がま口上受講生募集』の練習風景の写真入り記事を見て、これだ！と思ったのです。林会長宅に電話したら「北茨城は少し遠いから・・・」と半年前に出来たばかりの『水戸教室』を紹介されました。

何回通ったら覚えられるのかな、と思いつながら同じところで引つ掛かり、ぐるぐる回転しながら二年は過ぎたと思います。

ある寒い風の吹く日、フラワーパークで感激のデビューとなりました。初めての人前での口上、頭は真っ白、何を話したのか分かりませんでしたがとにかく終わり、星野先生から「良かったよ。」と言われたことだけを記憶しています。

それからも教室に通い続け、年期だけは先輩格になりました。頂いた会員証を大切に宝物扱いにして保管しております。少しでも練習を怠ると、忘れるところがボロボロ出てきますので、油断なく続けるのだから自分に言い聞かせています。



四六のがま(筑波山にて) 佐藤貞弘氏 提供

カラオケと健康

村 竹 儀 昭

現代社会の中にこれほどカラオケが普及したのは何故なのでしょう？音楽を聴いたり、歌うことが人間に不可欠な要素であることは間違いありません。

私は勤めを終えた第二の人生で総合イベント業を営んでおり、その一部に土浦市内のカラオケルームがあります。お客さんの中には、八十八歳のご主人と八十二歳の奥さんがほとんど毎日来て歌っておられますし、お客さんの平均年齢は七十歳くらいだと思います。

歌うことが健康に良いのは医学上も立証されており、ボケ防止に有効なことも明白であります。こうしたことを更に進化させた機器として開発された**生活総合機能改善機器『エルダーシステム』**があります。この機器には歌いながら体操やゲーム等をするプログラムが三百種類以上あります。これを 30 分～1 時間程楽しむことで高齢者の機能が大幅に改善される・・・と現在行政機関や民間の介護施設に導入され始めております。この機器は極めてコンパクトで移動も簡単、通常のカラオケも楽しめて更に機能改善プログラムがありますので、近くの公民館等に一台あれば格安で皆が楽しめ、健康を維持できるものと思います。

私のイベントの前にも、お客さんに楽しんでいただくために実施しております。

関心のある方は、ご連絡ください。





新年早々、一月三日のフラワーパークでの口上に佐藤さんと私が参加致しました。静かで穏やかな日で、庭園にはイルミネーションがいっぱい飾られています。

日中は新年三日目で来園者も少なく、当然がま口上の会場に来る人も無く・・・。ムリヤリ(?) 観客を呼び込み、何とか口上を行いました。途中で出ていかれて誰も居なくなってしまう、これにはさすがに困ってしまいました。

夜の部には成田さんが来てくれる予定でしたが都合が悪くなり、一人ではということでお付き合いですることに致しました。夜の部は五時と六時の二回おこないましたが、入場者も多く、また呼び込みに引かれて入ってくれたお客さんで会場はいっぱいになりました。当然がまの口演にも熱が入りました。お子さん達は刀で腕を切り赤い血が出ることに驚き、心配して腕を見に来たり、写真を一緒に撮ったり出演者としても嬉しい気分になりました。昼の困惑はさておき、がまの口演に満足した一日でした。

(稲葉 茂)



新年 がま口上

稲葉 茂

昨年 12 月 1 日から 2 月 14 日まで、口上披露の場としてお世話になっている茨城県フラワーパークでイルミネーションをメインとした夜間入場が始まりました。寒い時期にもかかわらず好調な出足だったようです。



「恋人の聖地サテライト」に選定

プロポーズにふさわしい観光スポットを NPO が選定する「恋人の聖地」に關連し、茨城県フラワーパークが、聖地に準じる「恋人の聖地サテライト」に選定されました。サテライト選定は県内で初めて。三万株のバラで有名な同園では、カップルなど多くの集客にも期待を寄せ、グリム童話を再現したというイルミネーションも始め、幅広い年代の集客に向けて動きだしています。

編集後記

今月久々に劇団四季のライオンキングを観てきました。団体の中学生が何校かで、かなりの席を占めており、開演前の姦しさはご想像の通りです。しかし、若いパフォーマー達の渾身の歌やダンスは一瞬にして観客を劇中に引き込み・・・鍛えぬいた本物の力のなせる業です。身近には映画館しかない子供時代を過ごした編集子は、隣席の小さな女の子が身じろぎもせず見入っていた姿を少し羨ましく、そして微笑ましく眺めておりました。観客に訴える力について改めて考えました。

次号の投稿をお待ちしております。

編集子